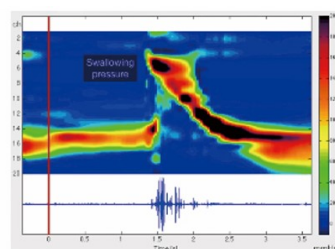


未来社会像

信頼性の高い人工知能技術を活用した「嚥下計」（測定器）を開発および普及させ、人々の「食べることの楽しみ」が1日でも長く続く生活に寄与します。高齢者における誤嚥性肺炎のリスクを低下させるため、嚥下機能低下を未然に防止するために食事時のモニタリングを可能にすることで、誤嚥の予防を目指します。

基本技術

人工知能が嚥下を測るウェアラブルデバイスGOKURIは、筑波大学及び筑波大学附属病院における研究成果である、頸部装着型嚥下モニター（特許第5952536号）と情報システムがもとになっています。首に装着したセンサで嚥下音や姿勢を計測し、AI技術とクラウドデータベースが解析（特許出願中）。正しく嚥下できたかどうか、嚥下音の波形や行動データ（姿勢）等に基づいて嚥下能力がどの程度なのか定量化します。



実施概要

基盤構築プロジェクトでは、大量データの収集並びに信頼性の向上を目指し、新たな機能を持つプロトタイプの実製並びにサイズ拡大、学術大会での訴求、データ解析力の強化を図りました。また、米国の事業展開に関する市場調査にも取り組みました。既にPLIMES株式会社を立ち上げておりましたが、有力な事業パートナーと関係構築ができ、現在、約20箇所からなる協力拠点から20,000件を超える大量データを収集することができました。また、資金調達を経てハードウェアのアップデートを実施し、令和3年度には量産化及び医療機器認証を取得を目指し、課金型ビジネスを開始していく予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】

国立大学法人筑波大学サイバニクス研究センター <https://www.ccr.tsukuba.ac.jp/>

株式会社PLIMES <https://www.plimes.com/>